

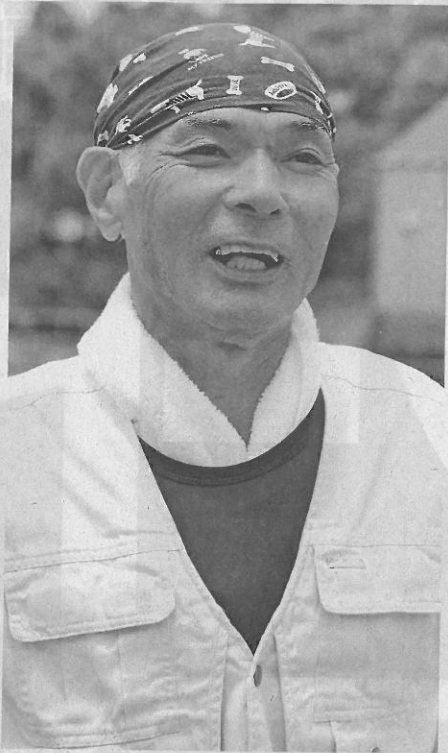
# 県内 4 病院 就労相談始まる

# がんと闘い働ける場を

がんを治療しながら働ける社会に。県内四つのがん拠点病院で、本年度からがん患者らを対象とした就労相談が始まった。がん患者は年々増加し、日本人の2人に1人が生涯のうちに罹患する。新たな患者の3人に1人は就労世代だ。ところが、がん患者が解雇される、依願退職するといったケースも多く、企業や共に働く人らによる理解が望まれている。

県内に住む60代の女性が、当時は治療で精い入院日数は短縮。体力性は5年ほど前、がんっばいで、「それぞれの低下や定期的な通院であることを勤め先にろではなかった」。の必要性といった事情打ち明けた。非常勤で働くがん患者の約3を抱えながらも、収入働いていたが、いつの間に1人が解雇や依願確保や生きがいのた間にか別の人が自分の退職で職場を去っていめ、働くことを望む人シフトに入るようになるとする厚生労働省のは多い。

り、「知らない間に辞 調査がある。一方で、ハローワーク徳島めさせられていた」。医療の進歩はめざましは、県内四つのがん拠点今考えると理不尽だ、生存率は上昇し、点病院で、月1回の就



「社会全体ががんに対する認識を新たに」と呼び掛ける渋谷さん  
 小松島市内

## 求人開拓や情報提供

労支援を始めた(表参照)。2013年度に厚労省が始めたパイロット版事業が本年度から全国展開されたことによる。

患者から同意を得た上で医療者から病状をヒアリングし、就労先の開拓や求人情報の提供を行う。がん以外の

疾病の患者も相談できる。「求人開拓はこれから本格化する。事業主に理解を求めていきたい」とハローワーク徳島の三宅盛隆職業相談部長は話す。

徳島大学病院の医療ソーシャルワーカー福田直也さん(28)は「これまで病院は治療の場というのが一般的な認識で、就労相談自体が少なかつた。窓口が浸透すれば、いろいろな声が寄せられるのではないかと予測する。

一方、県内のがん患者グループ「ガンフレンド」の渋谷義久副代表(64)は「小松島市堀川町IIは、こうした取り組みを絵に描いた餅に

### ハローワークによる就労相談の日時

| 病院       | 日時(いずれも要予約)     | 予約・問い合わせ先    |
|----------|-----------------|--------------|
| 徳島赤十字病院  | 第1木曜 午後2時~4時    | 0885(32)2555 |
| 徳島市民病院   | 第2木曜 午前10時~午後3時 | 088(622)5121 |
| 徳島大学病院   | 第3木曜 午後1時~4時    | 088(633)7306 |
| 徳島県立中央病院 | 第4木曜 午後1時~4時    | 088(631)7151 |

終わらせないため、が会全体で新たにすることを必要を指摘する。

「人間関係に悩んで職場を去る患者も多かん患者らの就労を支い。採用され、長く働援するため、企業向けくため、みんなが病氣ガイドラインを公表。を理解することが大渋谷さんが言うよう切。多くの人がいまだに、管理職や従業員にがんと「不治の病」対する啓発を重要として思っているが、それたほか、▽企業が医療機関と病状を共有しては昔の話」

渋谷さん自身、がん適切な配慮をする▽時治療を経て仕事に復帰差出勤の導入といったした。血液がんへの環境整備などを求め患が分かったのは9年ている。

前。水道工事店を営ん 渋谷さんは「過度にしていたが、抗がん剤のがん患者を特別視する副作用で体が動かす、のではなく、介護や育数年仕事ができなかつ 児、難病治療などさました。しかし今はまた、さまざまな事情を抱えた人工事の現場に出る。目らみんなが、働きやす頭の女性も治療後、体い仕組みができればいい調は安定し、知人からい」と話した。



がん患者らから就労相談を受け付ける患者支援センター—徳島大学病院